

第6学年1組 図画工作科学習指導案

指導者 田中 健治

1. 題材名 「布と枝のコンサート」 A表現（2）工作

2. 題材設定の理由

- 本学級では、図画工作科の時間を楽しみにしている子どもが多く、活動においてはとても意欲的に取り組んでいる。第5学年の題材「線で作った形」においては、針金やペンチを使って、曲げたりつなげたりしながら、線の組み合わせや動きの面白さ、美しさなどを感じながら表現を楽しむ活動を経験した。第6学年では、題材「感じたままに花」で、見たものや想像したものの形や色、印象をもとに、自分なりのかき方で絵に表す楽しさを感じ取り、心地よさを味わった。題材「墨のうた」では、墨を使って、大きさの違う筆やさまざまな形のローラーや身近材料で思いのままに表現し、墨の形や濃淡、奥行きや配置などの感じをとらえ、楽しく活動した。しかし、これまでの様子から見ると、発想や構想の段階で思うように活動が進まなかったり、意欲が持続しなかったりして、自分の表現に満足できていない実態がある。そこで、今回は、自然の枝木や布などの身近材料を使って、形の組み合わせ方を考えたり、試したりする活動を通して、形や色、方法や材料を工夫しながら表現していく力を身に付けさせたい。さらに、既習である「針金やペンチの使い方」を経験していることが、この題材においては十分に生かせるのではないかと考え、本題材を設定した。
- 本題材は、身近に存在する枝と布を用いて、枝と枝とを組み合わせたたり、枝に布を巻いたり貼ったりするなど、材料の特徴から発想を広げながらつくりたいものを表現していく造形活動である。枝は、長さや太さ、色、枝分かれの仕方など、どれも違っており、子どもの発想が広がっていくと考えられる。また、いくつかの枝を組み合わせることで、さらに発想が広がっていくと考えられる。布は面があるとともに、柔らかく、巻いたり、貼ったり、包んだり、裂いたりと多様な使い方ができる。また、布の色や柄も自分の思いを表現していく上では重要な要素の一つとなる。そこで、材料に十分触れ、表したいことを見つけることや友達との交流の中で自分の表現を振り返り、新たなものを加えたり、取り換えたりする活動を認めながらより思いがこもった表現をさせていきたい。

3. 指導上の着眼

【着眼1】子どもの活動意欲を喚起する題材設定の工夫

子どもが、材料の特徴に関心を持ち、さまざまな方法を試みながら想像を広げ、意欲的に活動することができるように、本題材においては、以下のことを工夫点とする。布と枝が主材料であるが、これらについて、子どもが自分で集めるよう働きかけることとする。そうすることで、子どもが材料への親しみや愛着をもち、「これを生かしてつくりたい」という思いをもつことができると考える。また、教師も個々の子どもの思いに対応できるように、様々な形や色や質感をもつ枝や布を集めておく。特に枝においては、造形展開の幅を広げる上で有効なつる性のもの（校庭の藤の枝）を準備する。さらに、枝と枝を接合する用具として細い針金を扱いやすく加工したビニタイやモールを用意する。そうすることで、簡単に組み合わせたり、取り外したりする試行活動が展開でき、子どもの活動意欲を支えながら造形的な見方や考え方を高めることができると考える。

【着眼2】子どもが造形的な見方・考え方を働かせる学習活動の工夫

子どもが自分なりの造形的な見方・考え方を働かせて活動することができるように、「主体的な学び」

「対話的な学び」「深い学び」の視点から以下のように学習活動を工夫する。

- 互いの活動を見て、考えたことを伝えたり、思ったことを話したりすることができるように、生活班グループで学習を行う。また、子ども達同士が自然に行き来し、材料を選びながら交流ができるように、材料スペースを設置しておく。 <「主体的な学び」「対話的な学び」の視点>
- 子どもが自分のつくりたいもののイメージをよりいっそう広めたり深めたりするように、枝の特徴（堅い、細い、枝分かれ）を生かし、派手な色ではない布で表している作品と、布の特徴（明るい模様や色）を生かし、複雑な形ではない枝で表している作品の2つを提示し、それぞれの特徴を感じ取る場をもつ。 <「対話的な学び」「深い学び」の視点>
- 友だちや自分の作品のよさや美しさを味わうことができるように授業の終末にミニ鑑賞会をする。鑑賞の場面では、変容が分かるように、前時の作品（写真）を用意しておき、本時に表したものと比較しながら、「材料の組合せ方」や「形や色の工夫」、「道具の扱いの工夫」にポイントを置いて、交流する場をもつ。 <「対話的な学び」「深い学び」の視点>

【着眼3】学習評価の工夫

「振り返りワークシート」をもとに、子どもが毎時間ごとに振り返りを行い、各学習のめあてが達成できたかを自己評価する機会をもつ。教師は、その記述をもとに、次時に向けての指導に生かせるようにする。

4. 特別な教育的支援を要する子どもに対する指導上の工夫・手立て

別紙参照 ※ 別紙については、協議会后、回収します。

5. 目標

造形への 関心・意欲・態度	○ 布や枝の特徴に関心を持ち、いろいろと試しながら表すことを楽しもうとする。
発想や構想の能力	○ 材料の可能性をいろいろに試しながら発想を広げ、表したい形などを構想することができる。
創造的な技能	○ 布や枝のよさや美しさ、面白さなど特徴を生かして、使い方や組み合わせ方など工夫して表すことができる。
鑑賞の能力	○ 友達の作品のよさや表し方の工夫などに気付き、感じ取ることができる。

6. 指導計画と評価計画（総時数6時間）

	主な学習活動	指導上の留意点	評価規準（評価方法）
であう・みつける	1. 材料を見たり触れたりしながら、布と枝を組み合わせたときの形や色、つなぎ方を試してみる。 (2)	○ 材料の見た目や感触から特徴をつかみ、表現への意欲と見通しをもつことができるように、子どもが自分で気に入った枝を集める場をもつ。 ○ 子どもが自分のイメージをもつことができるように、ウエビングマップや鑑賞ノートを活用する。	【関】 布や枝の特徴に関心を持ち、いろいろと試しながら表すことを楽しもうとする。 (活動, 発言)

み つ け る ・ あ ら わ す あ じ わ う	<p>2. 材料の特徴を生かしながら発想を広げ、つくりたい形をつくる。 (3) 〈本時4／6〉</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ つくりながらつくりたいもののイメージを具体的にもつことができるように、材料に触って枝と枝の組み合わせや布の巻き方や貼り方などを試行する活動を促す。 ○ 針金とペンチによる安全で安定感のある結束の基本的な方法を指導する。 ○ 形や色、材質、その組み合わせ方に目を向けた工夫をしようとする思いをもつことができるように、材料の特徴を生かした工夫を取り上げて賞賛する。 ○ 自分の表しているものを見直し、表したいものの方向性を見出すことができるように、表し方の違う参考作品2点を提示し、その工夫を話し合う場をもつ。 	<p>【発】 材料の可能性をいろいろ試しながら発想を広げ、表したい形などを構成している。 (ワークシート、作品、活動)</p>
	<p>3. 場所を選んで作品を飾り、鑑賞会をする。 (1)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 空間を飾るよさや面白さを感じることができるよう展示の工夫をする。 ○ お互いのよさを見付けることができるように、材料のよさを生かしているところや、形や色のよさや面白さなどを評価できるように鑑賞カードを用意する。 	<p>【創】 布や枝の形や色のよさや美しさ、面白さなど特徴を生かして、使い方や組み合わせ方など工夫して表している。 (ワークシート、発言、活動)</p>

7. 本時の学習 平成29年9月29日(金) 第5校時 体育館

(1) 主眼

前時までに表した「布と枝のコンサート」に対して、新たに修正したり、付加したりする活動を通して、材料を効果的に使って自分のイメージを探りながら立体的に表現することができるようにする。

(2) 準備







① 教師 ペンチ、針金、ひも、毛糸、布切れ、接着剤、マスキングテープ、ビニタイ、枝木、竹、発砲スチロール

② 子ども 不要になった布製品、ひも、毛糸、枝木、はさみ

(3) 本時でめざす子ども像

布や枝を組み合わせ、つくったり、つくりかえたりしながら、自分だけの「布と枝のコンサート」の世界観を追求する子ども。

(4) 展開

主な学習活動・内容	○ 指導上の留意点 【観点】評価規準（評価方法） ★ 特別な教育的支援を要する子どもへの特に困難とされる場面での支援のポイント
<p>1. 参考作品を見合い、それぞれの表し方の工夫をについて話し合い、本時のめあてを確かめる。</p> <p> 太い枝と細い枝を組み合わせたらどうかな。</p> <p> 明るい布を巻くと、華やかになるよ。</p>	<p>◎ 自分の表しているものを見直し、表したいものの方向性を見出すことができるように、表し方の違う参考作品2点を提示し、その工夫を話し合う場をもつ。</p> <p>○ 表したいもののイメージがはっきりと浮かんでこない子どもや、表し方につまずいている子どもの思いを引き出し、めあてへとつなぐようにする。</p> <p>○ 製作活動の時間を確保するため、導入段階はできるだけ短時間でやる。</p> <p>★ 学習の見通しがもてるように、スケジュールを示しておく。</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">めあて 布や枝の特ちょうを生かした作品をつくろう。</div>	
<p>2. 布や枝の組合せ方を試しながら、工夫して作品をつくる。</p> <p> もう少し枝を組み合わせてみようかな。</p> <p> 布をさいて、枝に巻きつけてみようかな。</p> <p> 組み方や接着方法が分からないなあ。いい方法はないかな。</p> <p> この形はバランスが悪いなあ。もう一度作り変えてみようかな。</p> <p> その枝の組み合わせと布の色が合ってるね。</p> <p> さらに、布を巻いたり貼ったりしてみようかな。</p>	<p>○ 子どもが様々な組み合わせを試みようとするができるように、長さの違う枝や色の違う布を数多く用意する。</p> <p>○ 発想を膨らませながら活動できるように、当初にイメージしていたことが変化してよいことを伝える。</p> <p>○ 材料の特徴をよく生かし、自分が思いついたことを表現できている子どもには、思いをうまく表現できたことへの成就感を味わうことができるように、子どもの思いと表現方法をつないで賞賛する。</p> <p>○ 具体的な接合方法、接着方法については、いくつか提示して、自分の表現方法に合わせて選択できるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・枝と枝を組むとき・・・針金を十字になるように巻く。 ・布と枝の接着方法・・・木工用接着剤をぬる。 <p>○ 枝と枝がうまく組めない時には、マスキングテープを使用して補助すればよいことや、ひもだけではなく、モールやビニタイを使用してもよいことを助言する。</p> <p>★ 表したいものがあるものの材料の選択や表現方法が分からずつまずいている子どもには、自分の思いに合う材料を一緒に選んだり、具体的な表現方法についていくつか提示し、自分がやってみたい方法を選択させたりする。</p> <p>【発】材料の可能性をいろいろ試しながら発想を広げ、表したい形などを構成している。（ワークシート、作品、活動）</p> <p>【創】布や枝の形や色のよさや美しさ、面白さなど特徴を生かして、使い方や組み合わせ方など工夫して表している。（ワークシート、作品、活動）</p>
<p>3. 表した作品（途中）をもとに学習の振り返りをする。</p>	<p>○ 本時の活動に対する成就感や、次時への活動の意欲や見通しができるように、友達の作品のよさや、工夫している点について交流する場をもつ。</p>

